巻頭言

春想

公益社団法人日本防犯設備協会　常任理事
株式会社日立産業制御ソリューションズ　業務執行役員　副事業部長　市村　守

まず、元旦に起きました能登半島地震におきましては、被災された全ての方に、お見舞いを申し上げます。また、地域の方々の安全と一日も早い復旧・復興を心より願っております。

私自身も2011年の東日本大震災で被災しました。当時は、当社の工場にいましたが、大きく長い揺れ、天井から水道管が破裂し水が滝のように降りそそぐ中、避難しました。私は、会社の消防隊に属しており、急いで集合場所に移動し集まってくる隊員に社員の避難誘導を指揮して深夜まで対応しました。建屋の一部は、壁が大きく破損し、ファイルが至る所に散乱し、足の踏み場もない状況でした。幸い怪我人は出ませんでしたが、停電で真っ暗な中、複数のヘリコプターが灯りを点けて地上を照らす光景は異様でした。なんとか家に辿り着き家族の安否を確認できてほっとしましたが、携帯の電源を切っていたことを忘れており家族に随分と心配をかけてしまいました。

そこから暫くの間、水、電気、ガスといったパイプラインの停止、燃料、食料確保もままならない状態が続きました。当時、制御ネットワークシステムのエンジニアをしておりましたが、会社に行っても製造ラインは停止し、出荷前の制御盤や各種機器で構成したシステム検査も電源が無いため行うことができませんでした。

ある日、上司から会議室に呼び出しを受けました。会議室に行くと設計、品証、製造現場の名の通ったメンバーが多数集まっておりました。その場で、「震災の影響を受けた、ある社会インフラシステムの復旧を大至急行わなければならない。日本企業の垣根を超え一致団結で復旧を最短で行う。ついては、力を貸してくれ。」という第一声で復旧プロジェクトがスタートしました。早く復旧させたいという思いで、できることは全てやる。それが当時の合言葉でした。

私がいた工場からA社、B社、C社などのプロジェクトメンバーが集まる隣接県まで鉄道などの交通機関がまだ復旧しておらず、タクシードライバーさんに無理かなと思いながら事情を説明したところ、「日本の一大事だ。了解した。」と快諾。液状化した道や大きく段差が付いた橋などを数時間かけ目的地まで届けていただきました。また、当時は水が貴重で1ℓペットボトルを千葉のコンビニエンスストアで見かけた時に、店長さんに事情を説明したら「何本でも持っていけ」と言っていただきました。（確か、1人1本と広告だった。）本当に助かりました。

プロジェクトの方は、現場合わせが多く当社だけでなく、他社の製作現場の方々とアイディアを出し合いながら進め、部品の調達には何度もホームセンターに足を運びました。また、プロジェクトが進行していく中で、移動可能な無線基地局が必要になりました。急遽、ＳＵＶ車の屋根に無線アンテナとローテータを設置、リモート操作で稼働する改造車両を設計し、名古屋の車体メーカーに特殊車両の製作をお願いしました。仮組みできたとの連絡を受け車体メーカーに伺いますと日曜日にも関わらず若手作業者たちが多数待機しており、車体の説明、改善点の提案、すぐ直すので何でも言ってくれと熱く語っていただきました。感謝の言葉をお伝えすると、「物づくりに関わる人間として社会に貢献できるのは光栄だ」と口々に言っていただいた時は、心熱くなる思いでした。

その後も、さまざまなことがありましたが、何とか2か月でシステムが完成、現地に出荷する姿を見送ることができました。その時の疲労感と達成感は言葉に表せないものでした。多くの方々からのサポートを肌で感じ、お互いに助け合う力がいかに大切で励みになるか、この時期になると何度となく、この経験を思い出します。

現在も沢山の方々が能登半島地震の復旧・復興活動に尽力されております。被害の甚大さ、深刻さを考えますと完全復旧・復興まで容易なことではないと思います。

そのような中、残念なことに、住民が避難している住宅を狙った空き巣などの犯罪も発生しており警察庁から能登半島地震の被災地で犯罪を抑止し、避難をしている方々の不安を少しでも解消するために防犯カメラをおよそ1000台避難所の周辺や街頭への設置というニュースも入ってきております。

復旧・復興に向け、更に良い街つくり、安全、安心な社会づくりに日本防犯設備協会の皆様のご活躍と貢献の機会が数多くあると思います。引き続きのご支援、ご協力の程、どうぞ宜しくお願いいたします。

最後となりますが、協会活動にかかわる皆様の更なるご発展とご健勝を祈念いたしております。